

週日の説教

金 大烈 神父 2010年12月22日(水)

《感謝の心は信仰から》

主の平和

皆様、ご自分のことをよく考えてみて下さい。皆様はよく感謝するタイプでしょうか、文句を言うタイプでしょうか。冷静にご判断なさって下さい。

何かがあった時に、何かが起こった時に直ぐ出る反応、その反応はどちらでしょうか。いつも感謝しますという心で動いていますか、そうではないのでしょうか。これは簡単です。笑う時間が多いでしょうか。顔を崩す時間が多いでしょうか。それを考えたら直ぐ分ります。

さあ、感謝する心も色々ありますが、例えば、普通に信仰を持っていなくても、感謝すべき出来事に出会った時には、自動的に出る心が感謝の心ですね。それが正常。それが普通の普通の人々の半分です。しかし感謝すべきことがあっても文句ばかり言う人もいます。これは人がいいか、悪いかの問題ではなくて、その人自身が痛んでいる印です。それでは何で痛んでいるのか、それは色々な傷とか、色々な悩みとか、色々な否定的な環境によって、今まで受けたものによって、そのような人柄になっていることです。

さあ、信仰者である私達はどうでしょうか。多分よほど感謝することがあれば、信者の私達はほとんど皆感謝するでしょう。では教会が教える霊的な真の感謝とは何でしょうか。それは前に何があるか、何が起こったかは関係ありません。いつも自分が出会う全てのことに神様のみ旨を探して悟り、そして感謝することです。例えば、「最悪のことだ」と周りの人が言う出来事があっても、そういうなかで「ああ、これは神様感謝します。」という告白が自然に出来れば、その人はすでに天国の生き方をしていると思います。しかし中々難しいのです。

なぜ、私達は“恵あふれる”という表現をマリア様につけるのでしょうか。エリザベトも同じような表現をしましたね。私達に新しく教えられたマリア様の祈りは「アヴェ・マリア、“恵みに満ちた方”」なぜ“恵みに満ちた方”と言うのでしょうか。今日「マリアの賛歌」というきれいなマリア様の詩が、福音(ルカ1・46-56)として読まれたのですが、実際にマリア様はこのようにうたわれる立場ではありませんでした。乙女が身ごもったために石投げによって殺される可能性もあったわけです。田舎の娘として、自分がこれから起こる全てのことを考えてみたら、不安に陥って怖がる姿を見せてしまうそのような立場です。しかし彼女はタフでしたね。どこから来るのでしょうかその力は。

では一つ皆様に申し上げます。感謝はどちらから来るのでしょうか。私達の信仰で言う感謝の気持ちはどこから来るのでしょうか。出来事ではありません。出来事に対する反応ではありません。感謝は信仰から来ます。「信仰」どのような信仰でしょうか。簡単です。「あなたが私のために一番いいことに導いて下さるのを信じます。」という心です。その信仰によって感謝の心が生じます。感謝の心が

生じたらどんな実が実るでしょうか。喜びです。喜びがなかったら、私達はもう一度、自分の信仰を振り返って見る必要があります。

私の兄がよく使う表現に暗くて熱心な信仰者がいて、明るく熱心な信仰者がいると言っていますが、皆様もこの表現を覚えていると思います。これは本当です。一生懸命に祈りの生活をして、ミサに与り、奉仕生活をしながらも、いつも世の中の全ての重荷を自分が負っているような顔を見せる人々がいます。いいことしながらも責めることばかり言う人がいます。そして一つにならずに、いつもその人に出会わないように避けようとする人々がいます。逆にその人がいれば、どんなことを言ってもみんな人々が笑う。喜びを感じる。皆様の存在そのものが周りの人々を喜ばせる、笑顔を浮かばせるそういう存在になっていただきたい。それは信仰から来るものです。信仰から感謝の心、感謝の心から喜びの心それが全部一つになって周りが明るくなります。

皆様、熱心だけれども暗い人は、熱心な人をも周りをも全部暗くします。明るく生きましょう。そして感謝しましょう。難しいと思い、これはどうすればいいかと迷って前が見えない時、その時こそ、感謝することの出来る私達になりましょう。

ありがとうございました。